

# 獣害と地域のWELL-BEINGを考える — 捕獲隊活動は地域に恩恵をもたらしているか? —

○永田拓巳\*・金永大樹\*・岩崎麻弥\*・永瀬琉美子\*・村中優希乃\*・Ahmad Iman Hamzah\*・齋藤真央\*・齊藤ももこ\*\*・黒田暁\*\*\*・濱崎 宏則\*\*\*  
\*長崎大学環境科学部 \*\*一般社団法人 daidai \*\*\*長崎大学総合生産科学域(環境科学)

## 研究の概略

対馬では20地区で「捕獲隊」が結成され、住民主体の有害獣捕獲が展開されてきた。本研究では捕獲隊の結成が地区にどのような影響をもたらした、地区住民の生活満足度(QOL)および厚生(well-being)にどのような効果をもつのか、包括的かつ相対的に評価を行った。さらに、捕獲隊がもつ意義と可能性について、「地域への恩恵」という視点から考察した。

## 調査方法

### 半構造化インタビュー調査

- (1)各地区の捕獲隊長・隊員及び地区住民の方々
- (2)対馬市農林水産部 自然共生課  
一般社団法人 daidai 齊藤氏



写真1: インタビュー風景

### アンケート調査

対象者: 2023年11月時点で捕獲隊が結成されている19地区  
(捕獲隊用と地区住民用の2種類の質問票を用いて実施)  
調査時期: 2023年11月下旬~12月上旬  
配布数: 捕獲隊用200枚、地区住民用200枚  
有効回答数(率): 捕獲隊用118枚(59.0%)、地区住民用111枚(55.5%)

## 結果・考察

アンケート調査の結果から捕獲隊の活動そのものが地区住民のQOLに直接影響していないことが明らかになった。

- ・捕獲隊が地区に与えている影響とは実際にはどのようなもの?
- ・今後地区にどのような恩恵をもたらすことができる?

次の3つの視点から検討した:

### ① 捕獲隊の結成年度



それぞれの傾向を比較することで...

捕獲隊が精力的に活動するには時限があるのでは?

考えられる要因:

- ・捕獲隊員の高齢化
- ・捕獲隊の後継者不足
- ・捕獲隊活動により獣害被害が減少した(=必要性がなくなった)

### ② 捕獲隊の実態上の活動人数及び隊員個人の活動頻度

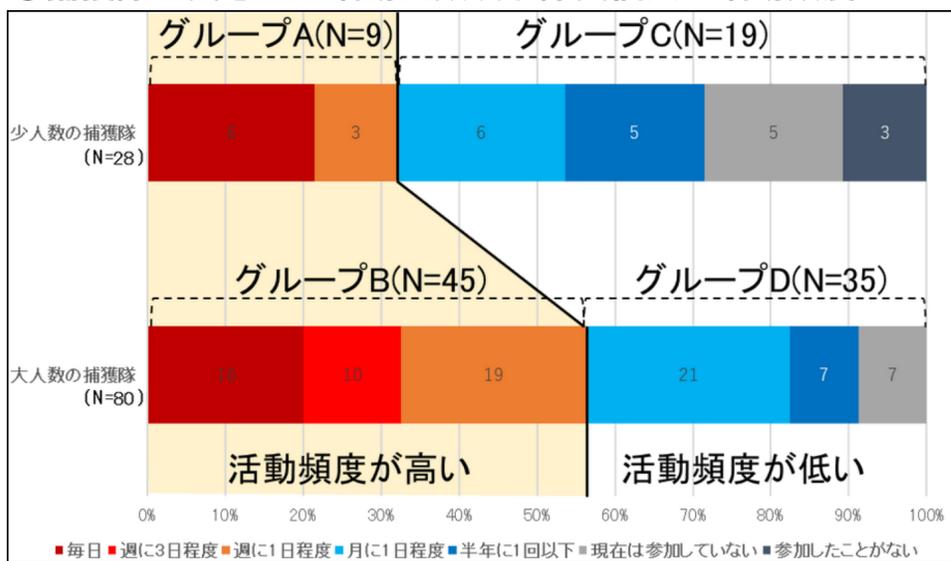


図1: 「捕獲隊の実態上の活動人数」と「現在の隊員個人の活動頻度」のグラフ

#### → 活動頻度による比較から分かったこと:

活動頻度が低い隊員(グループCとD)と比べて...

- ・能動的かつ自発的に入隊している傾向がある
- ・「イノシシやシカによる被害」を心配する人が多い
- ・活動にやりがいを感じている
- ・今後の活動継続意欲が高い
- ・「イノシシやシカをさらに捕獲したい」「後継者を育てたい」など、捕獲隊の将来的な展望を抱いている

#### → 活動人数による比較から分かったこと:

捕獲隊の活動人数による明らかな差異は見られなかった。  
→ 捕獲隊は獣害の現状や隊員の志向・方向性の差異等を理由に、地区ごとに異なる特徴・特性をもつことから、活動人数が多いことが隊員一人あたりの負担を軽減させる要因には必ずしもなり得ない。

### ③ 農作業の程度・関わり方(農地面積の差異、収入の有無)

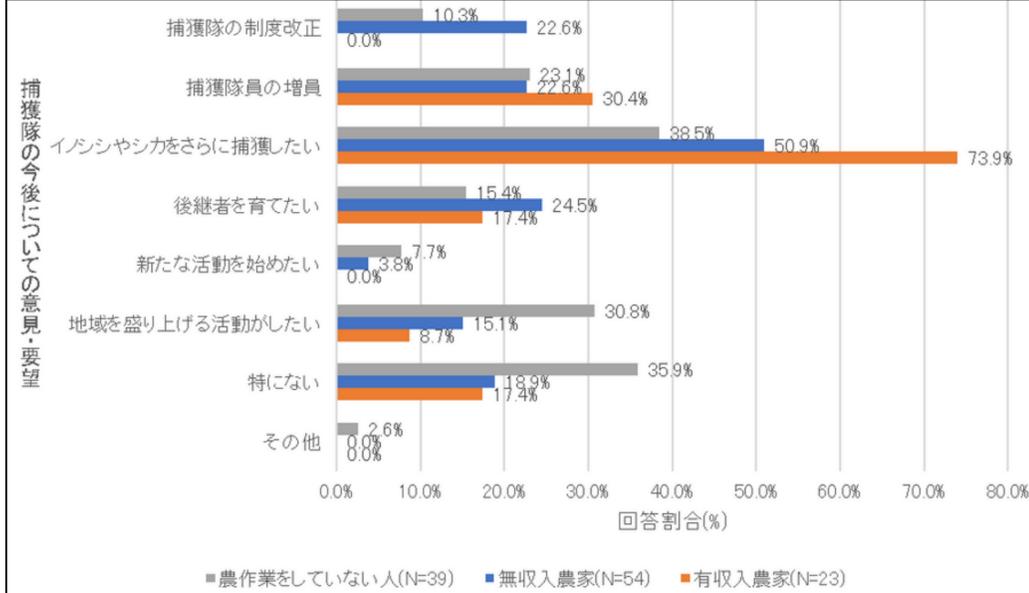


図2: 捕獲隊への意見・要望の回答分布(農作業の程度・関わり方別)

「農作業の程度・関わり方が弱い」グループと比べて...



捕獲隊活動による効果を感じにくい傾向があるのでは?

- そのため:
- ・自発的に入隊
  - ・活動頻度が高い
  - ・活動にやりがいを感じる
  - ・今後の活動継続意欲が高い

### 地区住民への設問に対する回答:

Q: 捕獲隊の活動への評価:



Q: 捕獲隊の活動に対する印象:



Q: 捕獲隊の活動は今後も継続すべきか:



→ 捕獲隊は地区住民からの評価・印象が総じて高く、今後の活動継続が望まれている存在であることが明らかに。

## 捕獲隊の今後に向けて

### 「捕獲隊交流会」

対象: 捕獲隊関係者

目的: 地区の垣根を超えた隊員同士の交流の場の創出

→ 活動状況の共有やイノシシやシカによる被害に対処することに留まらず、他の地域課題の解決に向けても有効な取り組み

### 「捕獲隊体験学習ツアー」

対象: “対馬の獣害問題の現状を学びたい”という意思を持った人々

目的: 捕獲隊の活動を隊員とともに見学し、様々な体験を通じて対馬の獣害問題の現状を知ってもらうこと。

→ 地域活性化への貢献、捕獲隊の新たな担い手を育てる場としての活用にも期待

## 謝辞

インタビュー及びアンケートにご協力くださった捕獲隊長・対馬市民の皆様、心より感謝いたします。本当にありがとうございました。



写真2・3: インタビュー風景